

パーソナリティのビッグファイブにおける 勤勉性と無気力の関係性

長内 優 樹

アブストラクト：

本研究は無気力とパーソナリティのビッグファイブにおける勤勉性の相関関係を明らかにすることを目的とした。大学生 ($N=32$) を対象とした質問紙調査を行った結果として、無気力状態測定尺度の尺度得点およびすべての下位尺度得点が、パーソナリティのビッグファイブにおける勤勉性と負の相関を示し ($r=-.42\sim-.62$)、本研究の仮説は支持された。また、この結果は、勤勉性の低い者は無気力であるとする先行研究の見解に実証的な裏付けを付与するものでもあるといえる。

問 題

「勤勉性の低い人は、環境や自分をありのままに受け入れて、仕事にこだわりをもたない。これは東洋的な考え方といえるだろう。しかし、極端な場合には、無気力で怠惰な人と思われるだろう (杉浦・丹野, 2008)。」東洋的か否かはさておき、パーソナリティのいわゆるビッグファイブ (特性5因子モデル) における勤勉性 (誠実性とされる場合もある) の教科書的な説明としてこのように無気力との関連性が指摘されることがある。しかし、この勤勉性と無気力の関係性について、実証的な研究は乏しい。パーソナリティは、人の広い意味での行動 (具体的な振る舞い、言語表出、思考活動、認知や判断、感情表出、嫌悪判断など) に時間的・空間的一貫性を与えているもの (神村, 1999)、などと定義されることが多い。それに対して無気力は、学習性無力感 (Seligman, 1975) を背景にもつ研究と、スチューデント・アパシー (Walters, 1961) を背景にもつ研究に大別されるが、近

年では、個人が自己の意欲または精神的なエネルギーの低下を知覚することであり、領域固有の無気力と領域全般的無気力に大別できる、とする定義がある (長内, 2009)。

本研究は、無気力とパーソナリティの勤勉性の関係性に関する資料を得るために、大学生を対象に質問紙調査を実施する。

目 的

無気力とパーソナリティの勤勉性の相関関係を明らかにすることを目的とする。

仮 説

無気力とビッグファイブの勤勉性は負の相関を示すと仮定できる。

方 法

研究参加者

大学生32名 (男性15名、女性17名) が研究参加者であった。この参加者数は、本研

究の仮説を検証する際に使用する相関係数を算出するにあたり、一般に中程度以上とされる相関係数 ($r > .40$) を母集団に想定した場合に80%の確率で有意判定が可能なサンプル数をもとめ¹、十分な人数であると判断した。

調査方法

2014年6月に関東圏内の2つの私立大学において講義時間内の集合形式で個別記入式の質問紙調査を行った。

質問紙

質問紙は次の心理尺度で構成された。学生の無気力状態を測定するために長内(2011)による無気力状態測定尺度(15項目7件法)、パーソナリティのビッグファイブを測定するために小塩・安部・カトローニ(2012)による日本語版Ten Item Personality Inventory; TIPI-J(10項目7件法)を用いた。

倫理的配慮

著者の所属機関に設置された研究活動推進委員会において倫理審査を受けた。また、調査は日本心理学会調査倫理(2009)に関わる注意事項に遵守し作成され、調査の任意性や回答を拒否した際に不利益がないことを説明のうえ、研究参加者から同意を得たうえで調査を実施した。調査への参加に同意した研究参加者には、調査票の1ページ目にチェック欄を設け、その旨を任意で記入をもとめた。

結果

先行研究に倣い、無気力状態測定尺度とその3つの下位尺度得点、TIPI-Jの下位尺度のうち勤勉性の得点をもとめた。その平均値と標準偏差をTable 1に示す。

Table 1 無気力状態尺度とTIPI-Jにおける勤勉性の平均値と標準偏差

	M	SD
無気力状態	54.73	11.72
非活動的	18.12	5.48
不本意	16.70	4.43
先延ばし	19.91	4.27
勤勉性	5.67	2.84

次に無気力状態とパーソナリティのビッグファイブにおける勤勉性の関連性を明らかにするために、無気力状態測定尺度とTIPI-Jの勤勉性の相関係数をもとめた。その結果、無気力状態尺度の尺度得点と勤勉性の相関係数は、 $-0.62(p < .001)$ であった。続いて、無気力状態尺度の各下位尺度と勤勉性の相関係数(r)は、非活動的が $-0.53(p < .01)$ 、不本意 $-0.42(p < .05)$ 、先延ばしが $-0.60(p < .001)$ であった。

考察

本研究は無気力とパーソナリティのビッグファイブにおける勤勉性の相関関係を明らかにすることを目的とした。結果として、無気力状態測定尺度の尺度得点およびすべての下位尺度得点が、パーソナリティのビッグファイブにおける勤勉性と負の相関を示し、本研究の仮説は支持された。また、この結果は、勤勉性の低い者は無気力であるとする先行研究(杉浦・丹野, 2008)の見解に実証的な裏付けを付与するものでもあるといえる。

今後の課題として、本研究の結果の外的妥当性を検証し、知見を蓄積していく必要性が挙げられる。

¹ $n = 4 + (8 / 0.4) = 24$

引用文献

- 狩野武道・津川律子 (2011). 大学生における無気力の分類とその特徴 —スチューデント・アパシーと抑うつ—の視点から—教育心理学研究, 59, 168-178.
- 神村栄一 (1999). パーソナリティ 中島義明 (編) (1999). 心理学辞典 有斐閣, p.686.
- 日本心理学会 (2009). 公益社団法人日本心理学会倫理規定.
- 長内優樹 (2009). 大学生における知覚された無気力の研究—領域固有の無気力が領域全般的無気力に及ぼす影響— 応用社会学研究 東京国際大学大学院社会学研究科, 19, 101-112.
- 長内優樹 (2011). 無気力状態測定尺度の作成の試み 応用社会学研究 東京国際大学大学院社会学研究科, 21, 47-53.
- 小塩真司・阿部晋吾・カトローニピノ (2012). 日本語版 Ten Item Personality Inventory (TIPI-J) 作成の試み パーソナリティ研究, 1, 40-52.
- Seligman, M. E. P. (1975). *Helplessness : On depression, development, and death*. San Francisco: Freeman.
- 杉浦義典・丹野義彦 (2008). パーソナリティと臨床の心理学 次元モデルによる統合 培風館.
- Walters, P.A.J. (1961). Student Apathy Blaine B. Jr. & McArthur C.C. (ed) *Emotional Problem of the Student*, Appleton-Century-Crofts.

注

本研究は無気力の年代間比較を行うために計画された定期的な縦断的調査における一部のサンプルのみを分析対象としたものである。